

保健医療計画調査部会（令和５年５月30日開催）における医療計画策定に係る意見と対応の方向性について		
No.	意 見	対応の方向性
1	<p>・５疾病・６事業以外の疾病についてはどのように検討を進める考えか。</p> <p>・高齢者が増加する中で、問題となる５疾病・６事業以外のフレイル、骨粗鬆症、ロコモティブシンドロームなどについても、次期医療計画に入れるべき。</p> <p>・検診をしっかりとって早期に疾患を見つけ、骨折等も予防して健康寿命を延伸していくような施策も入れるべき。</p>	<p>・適当な分野別協議会や関係団体等がある場合は、議論、検討、意見照会等において活用させていただきます。</p> <p>・骨粗鬆症、ロコモティブシンドローム、フレイル等については、現行計画の「高齢化に伴い増加する疾患等対策」の節に記載がありますが、次期医療計画においても、次期健康増進計画（第三次健康ふくしま２１計画）と整合性を図りながら記載する内容を検討してまいります。</p> <p>・なお、次期健康増進計画は、医療計画の検討体制で分野別協議会として位置付けている健康長寿ふくしま会議において検討されることとなります。</p>
2	<p>かかりつけ医機能報告制度が令和７年４月に創設されるが、次期医療計画の中に記載されるのか。</p>	<p>かかりつけ医機能報告制度については、今後報告項目等の具体的な運用が国において議論された上で報告制度が開始され、次期医療計画の中間見直しの際にかかりつけ医機能に関する記載が反映されとの方向性が国から示されております。</p> <p>なお、かかりつけ医・かかりつけ歯科医等については、現行計画の「地域医療の機能分化と連携」の節に記載がありますが、次期医療計画における記載について、御意見を伺いながら検討してまいります。</p>
3	<p>地域別の検討については地域医療構想調整会議の役割が非常に重要になるため、計画策定に当たって、各地域の保健所に調整会議の活性化と建設的な意見の発信をお願いしたい。</p>	<p>次期医療計画の地域編については、地域における医療提供体制の確保や医療連携体制の構築のために講じる地域の関係者が連携した取組を記載内容としたいと考えており、地域医療構想調整会議を主な検討の場としております。各地域の県保健所が事務局機能を担いながら、中核市保健所と連携して地域編について検討してまいります。</p>
4	<p>地域医療構想について、今後は在宅あるいは施設での看取りの体制を作る必要があるため、地域医療構想調整会議の中に在宅医療の関係者や医師会の方を入れ、建設的な議論をしていくべき。</p>	<p>次期地域医療構想は、高齢者人口がピークを迎え減少に転ずる2040年頃を視野に入れつつ、病院のみならずかかりつけ医機能や在宅医療等の議論も含め、中長期的課題についての整理・検討を国レベルでも行っていくとされています。本県としても、次期地域医療構想の策定を意識しながら現在の地域医療構想の取組を進めてまいります。</p>

保健医療計画調査部会（令和５年８月１０日開催）における医療計画策定に係る意見と対応の方向性について		
No.	意 見	対応の方向性
1	・地域包括ケアシステムについて、より詳細に記載すべき。	地域包括ケアシステムの構築のためには、介護等と連携した医療体制の充実が必要であり、医療提供体制の確保を図るための計画である医療計画全体に共通する考え方であることから、次期医療計画においては基本理念として掲げたいと考えております。 また、地域包括ケアシステム構築のための取組については、在宅医療をはじめとする各論部分における記載を検討してまいります。
2	・かかりつけ医や地域包括ケアシステム等、県民にとっては専門的で分かりにくい言葉があるので、計画本文の記載にあたって留意すべき。	県民目線に立って分かりやすい記載・表現に留意して計画本文を作成してまいります。また、専門的・分かりにくい用語には注釈を付ける等の工夫を検討いたします。
3	・救急分野において、県民が一番困るのはどのような時なのかモニタリングすべき。	御意見を踏まえ、分野別協議会である救急医療対策協議会の場を活用しながら検討してまいります。
4	・原子力災害医療について、医療従事者に対する放射線教育が必要。	御意見を踏まえ、分野別協議会である原子力災害医療対策協議会の場を活用しながら検討してまいります。
5	・医師確保計画について、産科医や小児科医だけではなく、今後需要が増しく総合診療医の確保についても検討してほしい。	御意見を踏まえ、地域医療対策協議会等の場を活用しながら検討してまいります。

保健医療計画調査部会（令和５年１０月１０日開催）における医療計画策定に係る意見と対応の方向性について		
No.	意 見	対応の方向性
1	・在宅医療の節を在宅医療・地域包括システム等などとするなど、「地域包括ケアシステム」を章のタイトルとして記載することを検討してほしい。	地域包括ケアシステムの理念は、計画全体に共通する考えであることから、次期医療計画においては基本理念として掲げた上で、施策については各論部分に記載しております。 御意見も踏まえ、本文において、地域包括ケアシステムの理念と関連の深い箇所が分かるような記載をしてまいります。
2	・在宅医療を担う医療人の確保がこれからの課題となることから、全体的にその部分の論点をもう少し強く打ち出すべき。	在宅医療のニーズの高まりに対応した人材確保は重要であることから、御意見を踏まえ「第７章 医療を支える人材の確保」の各節において記載してまいります。
3	・認知症では、精神医療と一般医療に分けるのではなく、いわゆるリエゾン医療の確立が必要であり、高齢者が多いということも踏まえ、リエゾン医療の育成といった分野を充実させていくような施策が計画の中に盛り込まれるべき。	御意見を踏まえ「第８章第５節 精神疾患対策」及び「第９章第６節 認知症対策」において記載してまいります。
4	・リハビリテーションの充実について、地域包括ケアシステムを充実させるためには訪問リハビリの充実が重要であり、人材育成や機関の構築といったものをもう少し計画に盛り込みこむべき。	訪問リハビリ充実のための人材育成等については、高齢者福祉計画・介護保険事業計画などで記載を検討いたしますが、御意見を踏まえ、医療計画における記載についても検討してまいります。